

2020-5-1  
No.1052 500円

# 思想運動

特集 緊急事態体制下、いかに闘うか  
思想運動全国運営委報告(広野省三)／コロナ感染と日本の医療制度の現状／エッセイ(織瀬厚・飯島滋明)／労働と生活の場からの通信(5本)／コロナと戦う朝鮮／キューバとの連帯を(1～9面) 書評特集(5本) 11面



土砂が琉球セメント安和棧橋の敷地内にダンプで運び込まれる。紛争地帯で見られるカミソリ型鉄条網が周辺に張り巡らされている(二〇一九年七月・名護市安和)

(「おきなわ 辺野古の貌——今を撮る 豊里友行 フォト・アイ」より 関連記事10面)

沖縄県の離島、宮古島に今年四月ミサイル部隊が編成された。昨年発足した警備部隊を合わせると七〇名以上になる。昨年は三月四日軍用車両が港から陸揚げされる際、わたしたちは実力で車両の前に立ちほだかり、制服警官に排除されるまで八時間阻止行動を闘った。今年も防衛省もその経験からわたしたちの行動を警戒して、三月に入り少しずつ分割して早朝に搬入し、気づいた時には一〇〇台余りのミサイル車両が基地内に整列し、三〇〇余名の隊員も民間機等で分散してやって来た。まさにコロナ騒動の報道が始まっていた最中である。

今、日本中、いや世界中が未曾有の新型コロナウイルスの感染禍の困難に直面しているとの報道が続く。全都道府県に緊急事態宣言が出され、職場も学校も自粛を要請され、経済活動も生産活動も休止状態を余儀なくされ、市民生活は疲弊しており、人と人との接触を避けマスク、消毒、ソーシャルディスタンス二m以上と叫ばれている。そんな中にある宮古島の陸自基地内を三行なっている。わたしたちは翌日にも説明もなく、これは、自衛隊基地内では、まったく適用されていない。この事実を全国メディアは取り上げない。政府防衛省は把握しているのか？国会では問題にならないのか？基地内の情報は公表されない。工事の過程でも情報は隠蔽され改ざんされてきた。島でコロナ感染が基地から市中へ拡大し、島の医療が崩壊し、島中が地獄絵図になったなら、誰が責任を問われるのか？

沖縄の離島では人命はこんな軽い扱いはされるのだ。それは隊員の命も軽視されていることでもある。政府方針に従わない自衛隊、文民統制は機能していない。宮古島では自衛隊は治外法権状態である。島の軍事要人化で島民は「人質」と化している。

(二〇二〇年四月二十一日記)

四月十八日、駐屯地へ訓練と工事の中止を要請し質問書を提出した。方が一、基地内での訓練を中止し、住民の安全を確保し、住民の命を大切に！という表明の隊員家族も町へ出かけるわけだから市民への感染リスクは大きい。全国民に半強制的に「自粛」を要請されているが、自衛隊側からも四月十八日、宮古島人口五万五〇〇〇人の離島での医療資源は「全国水準」は沖縄の離島で

八月に報告を受けていた市長からも宮古島島民への告知は、市民へ感染が拡大するおそれがある。宮古島の基礎的な医療も、島ごと感染者集団(クラスター)になる恐れもある。このような離島で、自衛隊は不要不急の訓練を続けている。わたしたちが要請行動した翌日にも説明もなく、これは、自衛隊基地内では、まったく適用されていない。この事実を全国メディアは取り上げない。政府防衛省は把握しているのか？国会では問題にならないのか？基地内の情報は公表されない。工事の過程でも情報は隠蔽され改ざんされてきた。島でコロナ感染が基地から市中へ拡大し、島の医療が崩壊し、島中が地獄絵図になったなら、誰が責任を問われるのか？

沖縄の離島では人命はこんな軽い扱いはされるのだ。それは隊員の命も軽視されていることでもある。政府方針に従わない自衛隊、文民統制は機能していない。宮古島では自衛隊は治外法権状態である。島の軍事要人化で島民は「人質」と化している。

(二〇二〇年四月二十一日記)

新型コロナウイルスの感染拡大が続くなか、即座に工事を止めろ、という声が市民から上がっていたにもかかわらず、日本政府・沖縄防衛局は、辺野古新基地建設を強行し続けた。

その発端、四月十六日になって、海上作業に従事している労働者が、新型コロナウイルスに感染していることが明らかとなった。同じ建物を使用した一四人が自宅待機となり、沖縄防衛局は十七・十八日の埋め立て工事を停止した。週明けの二十日は引き続き工事を止めたが、沖縄防衛局は翌二十一日と二十二日に埋め立て工事を強行した。二十一日に軟弱地盤の改良工事に向けた設計変更申請を沖縄県に行なったことに合わせて、大浦湾に運んでいた土砂の陸揚げ、投入を行なうことで、工事続行を印象付けようとした。

二十二日以降は改めて工事を中断し、そのまま黄金週間に入ると思われるが、ここにいる間、日本政府・沖縄防衛局は、現場の労働者や抗議する市民、海保、沖縄県警、民間警備員に対する配慮がまったくなかった。

工事を行なえば、キャンプ・シュワフに連日数百人規模の関係者が出入りする。作業員や警備員が集中し、昼食や休憩をとる現場の事務所では濃厚接触が生じる。沖縄県内で感染者が増えるなか、家族や友人、知人から感染した人が、キャンプ・シュワフ内で

四月十四日にオール沖縄会議が、キャンプ・シュワフ内で感染を拡大する危険性は日に日に増している。

市民がそのことを指摘し、工事を止めるように言っても、沖縄防衛局は目を傾けなかつた。工事が続けられている限り、市民も抗議行動を止めるわけにはいかない。もともと抗議の場では感染者を出してはいけないから、行動には細心

八月に報告を受けていた市長からも宮古島島民への告知は、市民へ感染が拡大するおそれがある。宮古島の基礎的な医療も、島ごと感染者集団(クラスター)になる恐れもある。このような離島で、自衛隊は不要不急の訓練を続けている。わたしたちが要請行動した翌日にも説明もなく、これは、自衛隊基地内では、まったく適用されていない。この事実を全国メディアは取り上げない。政府防衛省は把握しているのか？国会では問題にならないのか？基地内の情報は公表されない。工事の過程でも情報は隠蔽され改ざんされてきた。島でコロナ感染が基地から市中へ拡大し、島の医療が崩壊し、島中が地獄絵図になったなら、誰が責任を問われるのか？

沖縄の離島では人命はこんな軽い扱いはされるのだ。それは隊員の命も軽視されていることでもある。政府方針に従わない自衛隊、文民統制は機能していない。宮古島では自衛隊は治外法権状態である。島の軍事要人化で島民は「人質」と化している。

(二〇二〇年四月二十一日記)

## 沖縄通信 宮古島

### 感染危機下陸自ミサイル部隊配備 軽視される離島の人命

#### 清水早子(ミサイル基地にいない宮古島住民連絡会事務局長)

## 沖縄通信 辺野古

### コロナでも排除される県民の人権 現地で行動する努力と工夫を続ける

#### 目取真俊(作家)

注意と工夫が必要となる。局には現場の労働者や抗議する市民、海保、沖縄県警、民間警備員に対する配慮がまったくなかった。

工事を行なえば、キャンプ・シュワフに連日数百人規模の関係者が出入りする。作業員や警備員が集中し、昼食や休憩をとる現場の事務所では濃厚接触が生じる。沖縄県内で感染者が増えるなか、家族や友人、知人から感染した人が、キャンプ・シュワフ内で

四月十四日にオール沖縄会議が、キャンプ・シュワフ内で感染を拡大する危険性は日に日に増している。

市民がそのことを指摘し、工事を止めるように言っても、沖縄防衛局は目を傾けなかつた。工事が続けられている限り、市民も抗議行動を止めるわけにはいかない。もともと抗議の場では感染者を出してはいけないから、行動には細心

八月に報告を受けていた市長からも宮古島島民への告知は、市民へ感染が拡大するおそれがある。宮古島の基礎的な医療も、島ごと感染者集団(クラスター)になる恐れもある。このような離島で、自衛隊は不要不急の訓練を続けている。わたしたちが要請行動した翌日にも説明もなく、これは、自衛隊基地内では、まったく適用されていない。この事実を全国メディアは取り上げない。政府防衛省は把握しているのか？国会では問題にならないのか？基地内の情報は公表されない。工事の過程でも情報は隠蔽され改ざんされてきた。島でコロナ感染が基地から市中へ拡大し、島の医療が崩壊し、島中が地獄絵図になったなら、誰が責任を問われるのか？

沖縄の離島では人命はこんな軽い扱いはされるのだ。それは隊員の命も軽視されていることでもある。政府方針に従わない自衛隊、文民統制は機能していない。宮古島では自衛隊は治外法権状態である。島の軍事要人化で島民は「人質」と化している。

(二〇二〇年四月二十一日記)

した十七日で行なわれた。現在の状況下で人が集まり、抗議行動を行なうことには批判もあるだろう。しかし、新基地建設が強行されている現実があるなら、命と健康と生活を守りつつ、現場で行動する努力と工夫を続ける必要があるとわたしは思う。

新型コロナウイルスについて理解を深め、どのような行動が感染リスクとなるのか、どのような対策が必要なのか、を調べたうえで、適切な行動形態を考え、実践する。そういう工夫と努力が大事である。そうでなければ委縮と自粛の負の連鎖に陥り、安倍政権の横暴を見ているか、インターネット上で不満を漏らして終わってしまう。

新型コロナウイルスの感染拡大への対策を口実に、市民の基本的な人権の制約や行政権限の強化が進められ、監視社会、全体主義国家の悪夢が現実のものとなろうとしている。恐怖の実態を見極めて、委縮することなく抵抗したい。